



KIRYO

High School
Dousoukai

- 発行 -

水戸葵陵高等学校
同窓会

茨城県水戸市
千波町 2369-3

- 編集・印刷 -

同窓会事務局

〒121-0831
足立区舎人 3-11-26EPS
03-5839-3456 (代)

第3号
2025年3月吉日



Topics

同窓会会長・校長挨拶	2P
剣道部OB・駅伝部の活躍	3～5P
現職員より	6P
原稿募集・同窓会HPについて	7P
総会開催について・編集後記・同封物の見方	8P



ご挨拶

同窓会会長 小林寛宣

同窓生の皆さんこんにちは。同窓会長の小林寛宣です。同窓会報を通じて皆さんにご挨拶できることをこの上なくうれしく思っております。

国際社会はロシア・ウクライナ戦争、イスラエルによるガザへの攻撃、アメリカのトランプ政権発足など、先行きの見えない状況が続いております。また国内に目を向ければ、不安定な政権運営にとどまることのない物価高、急速な少子化の進行など不安材料満載の状況です。そのような中、我らの母校である水戸葵陵高校では、現役生のみならず卒業生も目覚ましい活躍を遂げています。進学実績としては、東京大学合格者が久しぶりに出ました。また、柔道部、サッカー部、野球部、バスケットボール部をはじめとする運動部の活躍はもちろん、書道部、将棋部、吹奏楽部などの文化部も

様々な活動で県内外にその名を轟かせております。なかでも「葵陵といえば剣道部」といわれ40年近く活躍している剣道部と新興勢力の駅伝部の活躍は目覚ましく、本号でその様子を特集を組んでお伝えいたします。是非現役生、卒業生を応援してください。

今年は創立40周年を迎えます。去る1月25日に初の同窓会役員会を開催し、第1回同窓会総会開催に向けて話し合いを行いました。8月の中旬の土曜日あたりに開催するべく計画しております。詳細がわかり次第、皆さんにご連絡いたします。ご要望等がありましたら是非ともご連絡ください。皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

同窓会の活動が少しずつ進み始めておよそ40年になります。まだ会報発行程度しか行っておりませんが、同窓会費が若干不足しております。会報発行の賛助金を募集いたしますのでよろしく願いいたします。詳細は本号8ページをご覧ください。

最後になりますが、同窓生の皆さんのますますのご活躍を祈念するとともに、同窓会活動へのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



40周年を迎える 水戸葵陵高校

校長 鈴木博光

春の陽気が心地よい季節になりました。皆様方はいかがお過ごしでしょうか。同窓生の皆様方には、日頃、大変お世話になっています。

高校を取り巻く環境も少子化や現在の経済環境の中で、大変困難な状況にあります。本校は創立以来、一貫して建学の精神を大切に多様な教育機会の提供、特色ある教育を目指しながら人材育成に努めて参りました。毎年医学部合格者、国公立合格者、令和6年度は東京大学文科一類に開校以来二人目の合格者、また東京外語大、筑波大などの国公立大のほか、難関私立大学にも多くの合格者を、現在の医歯薬コース、特進iコース、進学Vコースから輩出いたしました。もちろん大学だけではなくそれぞれの生徒のニーズにより専門学校、就職に進んでいきました。令和7年度からは新たにDigitalXコースを開設いたします。これには令和5年度補正予算に計上された「高等学校DX加速化推進事業」で国からDXハイスクールに採択

されました。多様化する時代にあって未来を創造する人材教育を実践していきたいと思っております。また、部活動においても書道パフォーマンスの活躍、そして駅伝部が全国出場を果たしました。初めての都大路を選手7人で襷をつなぎ、見事に走りきりました。中継点ごとに「水戸葵陵」の名が全国に流れ、大変感動しました。これもひとえに、同窓生の方々のご支援によるものと存じ上げます。

1985年の開校以来、「国を愛し、人を愛し、平和を愛する」という建学の精神のもと、日々生き生きと勉強に部活動に励む生徒の姿は私を初め先生方の掛け替えのない喜びであります。今年は40周年を迎えますが、これまでの教育を総括し、新たに未来に向けた葵陵独自の教育改革を現在検討しているところであります。皆様方には、時期が来ましたならば、お知らせ申し上げます。多くの人に愛され、地域に根付き、未来を発信できる学校を永遠の課題と捉えこれからも皆様方の期待にそえるよう教職員一同、創立者の田中重信先生の教えを心のよりどころとして教育に取り組んでいく所存であります。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

近頃は気候不順が続いており、今年も暑さ寒さが厳しいことが予想されますが、皆様のご健勝のほどお祈り申し上げます。

剣道部 OB の活躍

本校剣道部は全国屈指の強豪校であり、40年近く剣道部の指導を続ける君島範親監督は、高校卒業後も剣道界で活躍できる選手の育成を心掛けて指導している。その結果、卒業後も素晴らしい成績を残している卒業生が多い。今回はその剣道部 OB の活躍を特集する。

第71回全日本剣道選手権大会で栗田龍介さんが日本一に!

令和5年11月3日、日本武道館で開催された第71回全日本剣道選手権大会で本校剣道部OBの栗田龍介さんは、初出場初優勝の快挙を成し遂げ、見事剣道日本一に輝いた。翌年の第72回大会では惜しくも連覇を逃したが3位入賞という素晴らしい成績を残した。

「信念」

私は第71回、72回全日本剣道選手権大会に出場いたしました。全日本選手権は小学生の頃からの憧れの場所であり、いつかはあの舞台への想いをもって剣道を続けてきました。高校時代を振り返ってみると、その舞台で、大勢の観客の前で試合をしている姿を想像することはできませんでした。しかし、高校、大学とどんな時でも目標を持ち、「信念」を持って剣道に取り組んできました。悔しい思いをしたことも多く、それでもその場面から逃げ出さず淡々と稽古に取り組んだことが結果につながったのだと思います。現在は社会人となり、剣道を通して人間力を磨く日々を送っています。その中で、目標を持ち、それに向けて全力に取り組む気持ちは高校時代から変わっていません。目標ややりがいを持たず生活を送る社会人がいる中、どれだけ歳を重ねても情熱を持ち、目標に向かって全力で取り組む人間であり続けたいと思います。現在

多くの方々に支えられ、応援していただき、目標に向けて取り組める環境に生きていることに感謝の気持ちで一杯です。2年後の世界大会に出場し、世界一になることが今の最大の目標です。信念をもって必ず達成します。

最後に、このような機会を頂いた水戸葵陵高等学校関係者の皆様へ感謝の気持ちを忘れることなく、人生をしっかりと歩んでいきたいと思います。そして同窓生の皆様とあの時と同じ感情でお会いできる日を心より楽しみにしております。

栗田龍介（平成31年卒業
広島県警）



第19回世界剣道選手権大会日本代表に選出!団体優勝、個人戦3位

令和6年7月4日～7日にイタリアのミラノで開催された第19回世界剣道選手権大会で、本校剣道部OBの宮本敬太さんと木村恵都さんが日本代表に選ばれ、宮本さんは団体メンバーとして優勝、木村さんは個人戦で3位を獲得した。本大会において日本代表チームは表彰台を独占し、その素晴らしい結果に両選手も大いに貢献した。

「世界大会を終えて」

私はこの度、7月にイタリアで行われた第19回世界剣道選手権大会に日本代表として出場させていただきました。3年に1度開催される世界大会は、私にとって憧れの舞台であり、この大会に出場し優勝することが目標の1つでした。

約2年前からこの大会に向けての強化合宿が始まりました。代表候補選手30人から始まった強化合宿は、最終的に10人に絞られます。私は21歳の時に初めて強化合宿に呼んでいただきました。その時は、第17回大会に向けての強化合宿でしたが、代表選手のレベルの高さに圧倒されてしまい、思うような結果を残すことができませんでした。そして、第18回大会は新型コロナウイルスの影響で中止となってしまう、世界大会に出場する機会がありませんでした。今回、6年ぶりに開催された世界大会に出場することができ、貴重な経験をさせていただきました。

日本代表として大会に出場することは、自分が想像してい

た以上にプレッシャーがあり、出場が決まってから大会が終わるまでとても長く感じました。試合は、男子団体に出場し、4戦4勝という結果で、日本チームとしても男女団体、個人完全優勝という良い形で終わることができました。試合内容も、自分らしい先を取る剣道ができて良かったと思います。

今回、世界大会に出場させていただき、改めて自分が求めている剣道や目標を再確認することができました。また、現地まで応援に来て下さった君島先生や両親に感謝を忘れず、今後もさらに活躍できるよう精進していきたいです。宮本敬太（平成26年卒業 警視庁）



「日々の地道な努力の中で「きっかけ」を掴め！」

私は令和6年7月4日から7日まで、イタリアのミラノで開催された第19回世界剣道選手権大会において、日本代表として個人戦に出場し、第3位という結果を残すことができました。

私は5歳から剣道を習い始めました。始めた頃からずっと強かったわけでもなく、特別なセンスがあったわけでもありません。ましてや、日本代表になれるなんて夢にも思っていませんでした。高校2年生まではレギュラーには選ばれていましたが、チームの足を引っ張ってばかりで、個人戦に出場しても県大会の2回戦で敗退するのが常でした。そんな自分が本当に嫌でした。しかし、ある一つの「きっかけ」を掴んだことで、少しずつ結果が出るようになりました。その「きっかけ」というものは人それぞれ違うと思いますし、それがいつどこで訪れるかは分かりません。だからこそ、いつでもその「きっかけ」を掴めるよう、環境を整えておくことが大切だと思います。

日本代表の選手団は本当に素晴らしい選手ばかりで、私などでは到底敵わないと思うような方々ばかりでした。それでも、一つひとつのことを地道に積み重ね、目の前のことに全力で取り組み、諦めずに続けたことが、私が日本代表になった理由だと思います。諦めないということは、とても難しく時に恐ろしいものです。何度も「諦めればどれだけ楽になるだろう」と考えました。しかし、「諦めることを諦める」ことに決め、先輩方に食らいついていくことで、自然と力が付いてきました。大切なのは、自分を信じて、自分自身と戦い続けることだと感じました。

大きな舞台や会場、そして多くの観客に見られると、人は誰でも緊張しますし、格好をつけたくなるものです。今回の世界大会では、日本国内の大会とは比べ物にならないほどの声援や観客の多さに圧倒されました。しかし、そうした状況で萎縮したり、格好をつけたりするのではなく、「楽しむ」ことこそが、自分の力を最大限に発揮する秘訣だと思います。また、練習でどれだけ自分を追い込めるかが、試合本番で輝けるかどうかを左右するとも感じました。

これからも多くの大会が続きますが、もちろん全ての試合で優勝を目指して臨みます。そして、2年後に日本で開催される世界大会に出場し、世界一の座を掴めるよう、これからも精進していきたいと思います。応援していただければ幸いです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

木村恵都（令和2年卒業 大阪剣道協会）



駅伝部の活躍

第75回全国高等学校駅伝競走大会初出場!卒業生は箱根に!

本校の駅伝部は、創立以来およそ40年の歴史がある。過去には全国大会や関東大会へ個人での出場歴もあるが、澤野敦監督が就任して駅伝を強化し始めると、めきめきと力をつけ、ついに令和6年12月22日に京都で行われた第75回全国高等学校駅伝競走大会に初出場を果たした。全58チーム中27位という成果は初出場としては素晴らしい成績である。澤野先生の選手に怪我をさせない指導は注目を浴びており、その指導法で生徒達はのびのびと成長している。卒業生の活躍も目立ち始め、昨年の第100回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）に初めて本校OBの小田恭平さん（令和3年卒業）が大東文化大学7区を走り、区間6位の成績を残して大東文化大学のシード権獲得に大いに貢献した。また、今年の箱根では2年連続で出場した小田さん（6区に出場）に加え、日本大学の長谷川豊樹さん（令和5年卒業）が7区に出場した。現役、OBの活躍で駅伝部入部希望者も増えており、今後益々活躍が期待される。

「16年87名で襷を繋ぎ、初の都大路へ」

第75回全国高等学校駅伝競走大会において、本校の選手たちがついに全国の舞台に立つことができました。就任16年目でようやく掴んだこの成果は、多くの皆さまの応援とご支援の賜物です。

現在、部員は22名です。素晴らしい選手たちとの出会いはこれまで卒業していった87名の部員たちの努力が繋いでくれたものです。2009年に久野廣陽（鉾田北中・神奈川大）と小泉勇人（英宏中・筑波大）の2名の長距離部員からスタートし、彼らは「卒業後、後輩たちが全国に出場できる環境と土台」を築いてくれました。2015年初めて特技奨学生

として大森峻矢（大子中・神奈川大）が入学。2017年には医歯薬コース在籍の宇田川駿也（岩間中・東京消防庁）が主将を務め、初代寮長の黒澤武尊（緒川中・城西国際大）とともに時間的制約がある中でもチームを懸命に引っ張り、県高校駅伝では初の1桁順位となる9位を達成しました。2019年、北関東高校総体1500mに出場した倉田蓮（双葉台中・埼玉医科大G）が個人選手権で優勝。1区を3位でスタートした同年の県高校駅伝では見事6位に入り、初の関東高校駅伝出場を果たしました。2020年には、後藤大志（金砂郷中・上武大）が超圧倒的な練習量でチームを

鼓舞、小田恭平（友部中・大東文化大）が県高校総体代替大会1500mで優勝。志賀智也（岩瀬東中・芝浦工業大）、二川健伸（水戸三中・麗澤大）らとともに3名が5000mで14分台を記録し、初めて「5000m平均タイム14分台」で県高校駅伝に挑みました。1区スタート直後の転倒により夢は1秒で途絶えましたが、懸命に追いつけた2時間10分26秒（4位）は、今でも強く心に残るレースの1つです。2022年には河野世寿（大宮中・城西大）が県高校総体1500m、5000mの2冠を達成。5000m総体で8位に入賞した長谷川豊樹（さいたま宮原中・日大）、1500m総体7位の井関達也（緑岡中・国士舘大）、8位の高野翔主希（友部中・湘南工科大）、5000m14分台の濱野行成（さいたま宮原中・平成国際大）、県新人大会5000m8位の高儀優斗（緑岡中・明治学院大）、一般入試から関東駅伝を走った佐藤颯太（豊浦中・東京経済大）をはじめ、

非常に層の厚いチームとなりました。16年間にわたる87名の部員たちの努力が積み重なり、現在の水戸葵陵高校駅伝部があります。

最後になりますが、私は水戸葵陵高校が大好きです。これまで寮の設立やクラブチームの立ち上げに際し、多くの方々から温かいご支援と励ましをいただきました。本校には「挑戦を後押ししてくれる温かい雰囲気」があります。今後も選手たちとともに努力を重ね、3～5年以内に全国大会での8位入賞、そして将来的には優勝争いのできるチームの育成を目指して邁進してまいります。

澤野敦（水戸葵陵高等学校 駅伝部顧問）



「全国高校駅伝を終えて」

私は12月22日に京都での第75回全国高等学校駅伝競走大会に出場しました。全国高校駅伝を走り終えた今、達成感と同時に多くの学びを得ることができた大会だったと実感しています。この大会を迎えるまでの3年間、監督やチームメイトとともにたくさんの努力をしてきました。1年目と2年目は県高校駅伝4位という結果で終わってしまい、とても悔しい思いをしました。それと同時に、最後の年は後輩たちと一緒に必ず全国の舞台に立つんだと自分に誓いました。

今年は総体シーズンからインターハイ出場など非常にいい結果を残すことができ、「絶対に全国駅伝に出場できる」という自信がありました。迎えた10月の県高校駅伝で私は1区を走らせていただき、区間賞を獲得し、トップで襷を渡すことができました。最終結果は水戸葵陵最高順位の2位で惜しくも全国駅伝の切符を逃してしまいました。しかし、今年は記念大会だったので関東駅伝でも全国駅伝出場を掴むチャンスがありました。県駅伝で負けてしまった悔しさを晴らし、必ず全国駅伝に出場するためにもう一度チーム一丸となって関東駅伝に挑みました。関東駅伝では1区から上位を走り続けました。途中、あぶない場面もありましたがアンカーで逆転することができ、関東駅伝初入賞の8位で北関東代表として全国駅伝出場を決めることができました。駅伝部の最大の目標であり、歴代の先輩たちの夢だった全国駅伝出場を決めることができ、嬉しさと安心で胸がいっぱいになりました。

関東駅伝が終わってから全国駅伝までの期間は時間が過ぎるのがあっという間で、気がつけばスタート当日になっていました。私は全国駅伝でも1区を担当しました。前半から先頭集団についていきましたが、後半は他県の強豪校の選手に離されてしまいました。目標だった区間順位一桁を達成することができず区間25位という順位での襷リレーで、不甲斐ない結果でした。しかし、2区以降の後輩たちが粘りの走りをして

くれたおかげで大きく順位を落とすことなく27位でゴールすることができました。

今回のレースで個人としての走力はもちろん、チームの総合力の重要性を感じました。駅伝は一人の力ではなく、仲間とともに戦う競技です。強豪校の走りを見てチーム全体の底上げをする必要があると感じました。今回はチーム目標、個人目標には届きませんでしたが、来年以降、今の1年生、2年生やこの先の駅伝部員たちが入賞や優勝といった大きな目標を達成してくれると思います。

水戸葵陵で過ごした3年間の競技生活は間違いなく私の陸上人生にとって大きな財産です。今後の大学、社会人での競技生活でもこの3年間で得た悔しさや喜び、達成感を胸に新たな目標へ向かって努力を続けていこうと思います。3年間私達を支えてくれたすべての方々に心から感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。これからも水戸葵陵高校駅伝部、そして井坂光の応援をよろしくお願いします。

井坂光（水戸葵陵高等学校 駅伝部3年）



現職員より

「長いようで短かった私の
教員生活」

同窓会会員の皆様こんにちは。皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、1986年（昭和61年）4月に水戸葵陵高等学校（当時は水戸短期大学付属水戸高等学校）に赴任しました。開校2年目で、赴任した直後にチェルノブイリ原発事故（旧ソ連）が起こった年です。39年が経ち今年の3月を持って定年退職となります。

月並みですが、今振り返ると長いようで短かった39年でした。自分の中で良かったと思うことは、39年間のうち29年間担任をさせていただいたことです。

最初に担任をしたのは赴任2年目。しかもいきなり3年生の担任として担任生活が始まりました。やるべき事もよくわからず、新設校でしたのでベテランの先生方がほとんどいない中で、試行錯誤を繰り返し、業務をがむしゃらにこなしていました。また、保護者の方々がずっと年上だったこともあり、初めての3者面談ではとても緊張していたのを覚えています。

長く担任をしていると様々な変化があり、振り返りますとそれも楽しかった気がします。ずっと年上だった保護者の方々が同年代になり、やがて年下になっていきました。ある年に教え子のお子さんの担任になったときは「もうそんなに時が経ったの?」と衝撃でした。また、たくさんの教え子の結婚披

露宴にお呼びいただき「恩師挨拶」などをさせていただきましたが、とても照れくさかった思いがあります。

気になるのは、時代の変化と共に言葉も変化してきた事です。生徒が「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。」を「あけおめ、ことよろ」と省略してしまう。それ以外にも様々な省略がありますが特に私はこれに違和感があります。新年の挨拶ですから、きちんとするべきだろうと常々思っていました。

しかし私たちが普段使っている「行ってきます」も「行って参るが、必ず帰ってきます」を省略した形だそうです。私はつい最近まで知りませんでした。昔は出かけて無事帰ることがままならない時代だったのでしょう。時代と共に言葉が変化するのは自然の流れなのかもしれません。かといって何でも省略してしまうのはいかがなものかと考える今日この頃です。定年退職後は時間の余裕もできますので、このような今まであまり考えることがなかったことにも目を向けていきたいと思います。

最後になりますが、今後も様々な形で水戸葵陵高等学校のお役に立ちたいと考えていますのでどうぞよろしくお願い致します。同窓会会員の皆様におかれましては益々のご活躍をお祈り申し上げます。

岡田康洋（水戸葵陵高等学校 進路指導部長）



「近況報告」

同窓会会員の皆様 いかにお過ごしでしょうか。私は昨年の8月に還暦を迎え、教員生活も38年になりました。たくさんの卒業生を送り出し5年前に1万人を超えました。

そんな教員生活もちょっと前まで生徒指導部長として皆さんに嫌われ役としてやっていたましたが、数年前に体調を崩し今はゆっくりやらせてもらっています。そんな中、長年携わっている剣道部の卒業生の卒業後の活躍をお話させていただき

ます。令和6年7月に三年に一度の世界剣道大会がイタリアで開催され、日本を代表する10剣士に2名が選ばれましたので、現地まで応援に行かせてもらいました。その時の話をしたいと思います。1つはホテル近くのショッピングモールに出掛けた時に私の前をドレッドヘアーの黒人と金髪の白人など5人の若者が来て流暢な日本語で「私たちはイギリスの選手です。失礼ですが水戸葵陵高校の君島先生ですか」と話しかけられびっくりしました。「私たちは水戸葵陵高校の剣道が大好きでユーチューブなどで動画を拝見しています。」というのです。その後、握手や写真を頼まれ照れ臭い思いをしました。次の日は近くのスーパーマーケットで身長2m程の白人を含む若者が近寄ってきて少し日本語が得意ではないようでしたがその中の一人が「キリョウ高校のキミシマ先生ですか。」と話しかけてくれました。「私たちはフランスチームのメンバーです。いつも動画で試合を見ています。キリョウ高校の剣道は素晴らしい大好きです。」と握手をして良い気持ちになって別れました。「ミトキリョウ」と日本人でも読めない校名を言っていることにうれしさを感じました。また、大会当日会場でア

メリカチームの監督、コーチがわざわざ私のところまで選手を連れてきてくれました。実はこの監督、コーチは葵陵に武者修行に来ていてその年に行われた世界大会で日本に勝つという偉業を成し遂げた選手でした。昔のことを少し話して試合に向かいました。私は本当に卒業生のおかげで剣道界という狭いところではありますが世界に存在させてもらっているという喜びがあふれました。たくさんの撒いた種が芽吹き大きな花を咲かせ立派に成長し葵陵の名を広げてくれると思うと誇らしく監督冥利につきるとはこういうことなのだろうなど感じさせてもらいました。

また、他の卒業生達も活躍していますので紹介します。まずは剣士達が目標とする全日本選手権において優勝したほか、国体優勝、都道府県大会優勝、全日本実業団選手権優勝、全国教職員優勝、全国警察選手権優勝、全日本学生選手権優勝と目標としている「日本一」に輝いてくれています。剣道部以外の卒業生達も政界や会社社長、店長と人の上に立つ立場になって頑張ってくれていることを耳にします。剣道部中心の文章になってしまいましたが私は定年までの残された時間を水戸葵陵高校の名声を高めるために頑張っていきます。陰ながら卒業生の方々のご活躍とご健闘、ご健康をご祈念申し上げて私の近況報告とさせていただきます。

写真は還暦のお祝いを剣道部の卒業生達が開催してくれたものです。感謝の気持ちを踏まえ掲載します。「皆さん頑張って下さい。」君島範親（水戸葵陵高等学校 剣道部顧問）



同窓会報の原稿募集！！

水戸葵陵高等学校同窓会報は、年 1 回発行を目指しております。同窓生の皆様に、近況や母校への温かい叱咤激励の文などを会報に掲載したいと思っております。是非ご協力をお願いします。

1. 文字数に指定はありません。書式も自由です。
2. できればお写真など、ご提供いただければと思います。(もちろん任意です)
3. いつでも募集しております。
4. 送付先 〒310-0851 茨城県水戸市千波町 2369-3 水戸葵陵高等学校同窓会担当宛
メール dosokai@kiryo.ac.jp
5. お問い合わせ 水戸葵陵高等学校同窓会担当 TEL029-243-7718 (代表) または上記メールアドレス

同窓会のホームページについて

水戸葵陵高校のホームページに同窓会のページがあります。現在は、水戸高・葵陵のOB が活躍した時の報告や同窓会報のバックナンバーなどを掲載しております。水戸葵陵高校の内容と合わせて是非ご覧ください。なお、皆さんの近況なども載せられればとも思っております。情報交換や交流の場にお使い下さい。詳しくは同窓会担当まで。



同窓会報作成のお手伝い募集!!

会報作成のお手伝いをしていただける方を募集いたします。興味のある方がいらっしゃいましたら、水戸葵陵高校同窓会担当(029-243-7718)またはdosokai@kiryo.ac.jpまでご連絡ください。

同窓会総会開催について

水戸葵陵高校(旧水戸短期大学附属水戸高校)は、今年創立40周年を迎えます。その節目の年に、第1回同窓会総会を開催しようと同窓会役員で企画しています。今年1月25日に行われた役員会で、8月中旬(16日が第1候補)に実施の方向で結論づけました。ただ、どのような会にするか、懇親会実施の有無、場所などはこれから検討していきます。もし良いアイデアがあれば是非お聞かせください。また、お手伝いいただける方も絶賛募集中です。楽しく有意義な会にしたいと思います。ご協力をお願いします。

編集後記

会報誌第3号の発刊を迎え、同窓生の皆様とのつながりがますます深まっていることを嬉しく思います。本誌を通じて、母校の近況や卒業生の活躍をお伝えできることは、編集委員一同の喜びです。

さて、今年は記念すべき初の同窓会総会が開催されます。多くの同窓生が一堂に会し、旧交を温める機会となるよう、準備に全力を尽くしております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。また、母校の誇りである部活動の活躍も目覚ましいものがあります。剣道部の輝かしい成績に続き、駅伝部や書道部も全国大会に出場するなど、伝統と実績を着実に積み重ねています。これらの活躍は、私たち同窓生の誇りであり、母校の更なる発展を予感させるものです。今後も、同窓生の皆様と母校との絆を深める架け橋となれるよう、誠心誠意努めてまいります。引き続きのご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(水戸葵陵高等学校同窓会報編集委員)

同封物の見方

賛助金の振込用紙です。
ご協力をお願いします。



3

2口以上ご寄附いただける方は、こちらのお振込用紙をご利用ください。

変更のある方はいずれかをご利用下さい。

①QRコード ②フリーFAX ③フリーダイヤル

1

あなたの整理番号です。

2

コンビニ、郵便局でご利用できます。

アプリ決済ご利用できます

Rakuten
楽天銀行

ゆうちょPay

pb
PayB

Jcoin

お問合せ・近況・メッセージ・住所変更等は.....

お問い合わせ(住所変更等はこちらへ)

ダイヤル 0120-10-9899(内線103) 平日10:00~17:00
FAX 0120-10-9184(終日受付)

